



はやしした とよひこ
林下 豊彦 (新清風会)



佐々木市長の今後のビジョンについて

問 市ホームページの市長の部屋には「笑顔があふれる「めがねのまちさばえ」をつくる」と書いてある。企業の場合には、目標や理念により企業の存在意義や行動指針を明文化し、業務上の意思決定の重要な基準になるとともに、組織の一体感を生み、社会からの信頼も得ることができる。笑顔があふれるめがねのまちを目標としていることは理解したが、職員が取る行動の指針となる企業理念のような理念はあるのか。

答 市長 私の市政目標である「笑顔があふれる「めがねのまちさばえ」をつくる」が理念である。これの実現に向け、市民の声に真摯に耳を傾けながら、市民の皆様、議会の皆様、そして職員と共に、チーム鯖江で一丸となって取り組んでいく。

今後の公共施設整備の方針について

問 鯖江市公共施設等総合管理計画では、現在保有している施設を同規模同水準で更新をしていくことは財政的に非常に困難な状況であると分析している。今後、長寿命化や複合化に取り組むためのビジョンは。



いしかわ おさむ
石川 修 (市民創世会)



詳細は、右上のQRコードから
YouTubeでご覧ください。



1. 少子化対策について

- ・来年度の子育て政策と予算
- ・子育ての負担軽減
- ・2050年の人口と住民税の予想
- ・市の方針および施策の転換

2. 物価高対策について

- ・国と市の対策
- ・米生産と適正価格
- ・賃金と企業の現状
- ・企業への補助と施策

3. 令和8年度予算について

4. DXの推進について

- ・業務量調査の実施
- ・業務改革と組織改革
- ・デジタル推進課の機能強化と体制整備

答 市長 子どもたちや保護者、様々な世代の方の交流とつながりを持てる居場所づくりを優先して進めている。市民が安心して集い、笑顔があふれる場を持続可能な形で提供することをビジョンとし、安全性の確保、官民の役割分担を見定めながら集約化をして長期的な財政平準化を考えて取り組む。

メガネ産業への支援について

問 眼鏡協会では「MADE IN JAPAN, 風土 IN JAPAN」という眼鏡産地のブランド価値を高め地域活性化を目指すキャンペーンを行っている。来年から新しくなる展示会への支援も含め、眼鏡産業全体への支援に対するビジョンは。

答 市長 眼鏡産業は「めがねのまちさばえ」を体現する象徴的な存在であり、地域の誇りである。品質と信頼を未来へ継承する意義深い取組であり、その趣旨に深く共感し、引き続き積極的に支援していく。新たな展示会についても、企業にとっては重要な商談機会であり、眼鏡協会を通じた支援、個社企業への支援に引き続き全力で取り組む。

意見 市長が考えるビジョンや目指す方向を職員と共有することで組織の一体感をつくり、社会からの信頼を得ながら市の施策を推し進めてほしい。

5. 職員人事について

- ・管理職の人事の在り方
- ・職員採用の在り方

6. 北陸新幹線について

- ・大阪延伸の現状に対する見解
- ・今後の鯖江市の考えと行動

7. 治水対策について

- ・神通川の整備計画
- ・日野川のしゅんせつ計画

8. 鳥獣害対策について

- ・今後の対策の在り方
- ・新たな対策の在り方

9. 上水道事業について

- ・老朽管の更新

10. 部活動の地域展開について

11. 神明苑について

- ・整備の予定
- ・整備への提案

ここが聞きたい!

代表質問

代表質問とは?

市の様々な課題等について、議員が会派を代表し、市長や理事者に考えを聞くものです。毎年12月定例会にて、3名以上の議員が所属する会派が質問します。

ページ	会派	質問者	質問内容	日程
P.10	さばえ結の会	三村 尚司	1. 物価高騰対策について 2. 公共施設等総合管理計画について 3. 令和8年度当初予算編成について 4. 山梨県甲府市との連携について 5. ふるさと納税について 6. <u>地域資源を活用したまちづくりについて</u>	12/8 午前
P.11	新清風会	林下 豊彦	1. 佐々木市長の2期目のこれまでについて 2. <u>佐々木市長の今後のビジョンについて</u>	12/8 午後
	市民創世会	石川 修	1. 少子化対策について 2. 物価高対策について 3. 令和8年度予算について 4. DXの推進について 5. 職員人事について 6. 北陸新幹線について 7. 治水対策について 8. 鳥獣害対策について 9. 上水道事業について 10. 部活動の地域展開について 11. 神明苑について	

※質問内容のうち、青字で下線が引かれたタイトルは、以下に詳細を掲載しています。



みむら しょうじ
三村 尚司 (さばえ結の会)



地域資源を活用したまちづくりについて

問 点から面へのにぎわいづくりを進めるに当たり、地域の思いを実現するためには官民連携を一層強化していくことが重要だと考える。中心市街地の活性化やにぎわいの創出に対する市長の思いと実現に向けた意気込みは。また、今後どのような支援を行い、どのぐらいの期間をかけて取り組むのか。

答 副市長 全国的な人口減少・少子高齢化に伴い、中心市街地の空洞化が課題となっている。本市でも、まちなかに人を呼び戻し、持続的な活力を生み出すことが求められている。市の歴史文化やものづくり産業、市民力などの豊かな地域資源を結びつけ、新たな価値とにぎわいを創出することが今後のまちづくりの核心であると考え。11月に鯖江まちなか交流・にぎわい協議会を設立し、今後、地域資源の再評価や課題整理を進めていく。また、令和9年3月をめどに官民連携のアクションプログラムを策定し、その後5年間をかけて事業を着実に推進したいと考えている。推進体制と財源を確保し、環境整備や情報提供など、必要な支援を行っていく。

問 神明地区には、国指定重要文化財の旧瓜生家住宅、円墳としては北陸最大級の兜山古墳、赤レンガ門が残る三六公園など、大きな可能性を含めた地域資源が多数あり、これらを面として結びつけることで、周遊や散策につなげることができると思う。神明苑の再整備を軸としたエリアの再構築として、岡山県倉敷市の児島ゾーンズストリートのような「メガネストリート」を官民一体となって整備していくという考えは。

答 市長 これまで、鯖江駅からめがねミュージアムまでのメガネストリート、河和田地区の軒下工房、RENEWなど、地域ブランド向上への取組を行っており、工房ショップの開業なども進んできた。産業資源と地域資源を融合させる考えは、極めて意義深いものと受け止めており、今後は業界団体の方との連携を深めながら、体験・交流・発信の場をつくり出し、ゾーンズストリートに少しでも近づけるように、官民一体となって魅力のあるまちづくりを進めていきたい。



10月に開催された RENEW 2025の様子